

新たな国立公文書館 基本計画原案

平成29年11月
内閣府

新たな国立公文書館の面積等

場所：国会前庭（憲政記念館敷地）

建物：地上3階地下4階

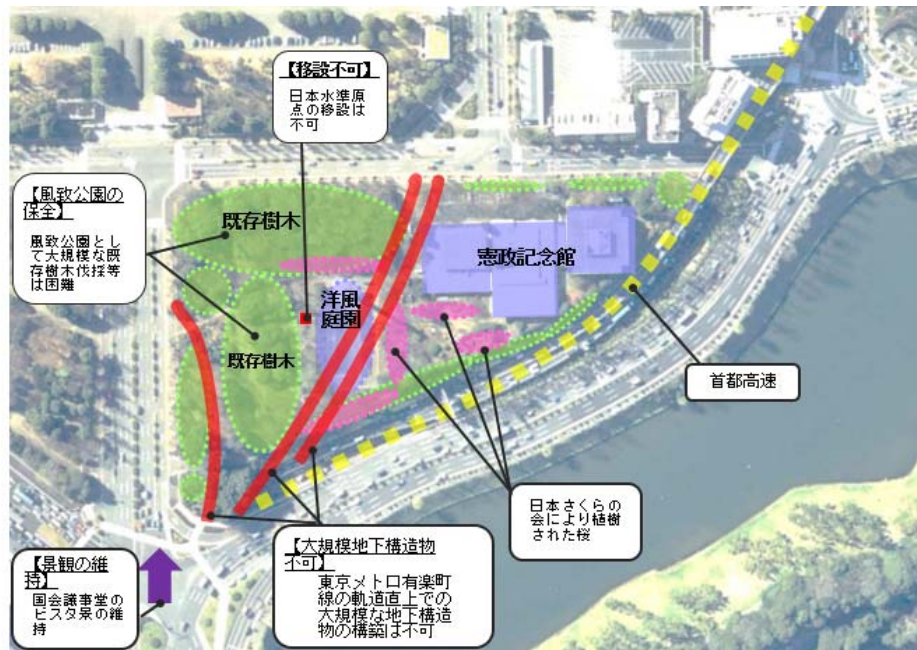
新たな国立公文書館の建物面積

：30,000m²程度

（うち、書庫部分8,000m²程度）

総建物面積：42,000m²程度

←憲政記念館・駐車場を含む面積



敷地の現状

(注) 建物（地上3階地下4階）については、現時点での想定であり、今後、関係行政機関等との協議により変更となる可能性がある。

※ 新たな国立公文書館の整備に当たっては、国の三権が集中するエリアであることを踏まえ、周辺の景観との調和に十分配慮するとともに、国のかたちや国家の記憶を伝える場にふさわしい施設を目指す。

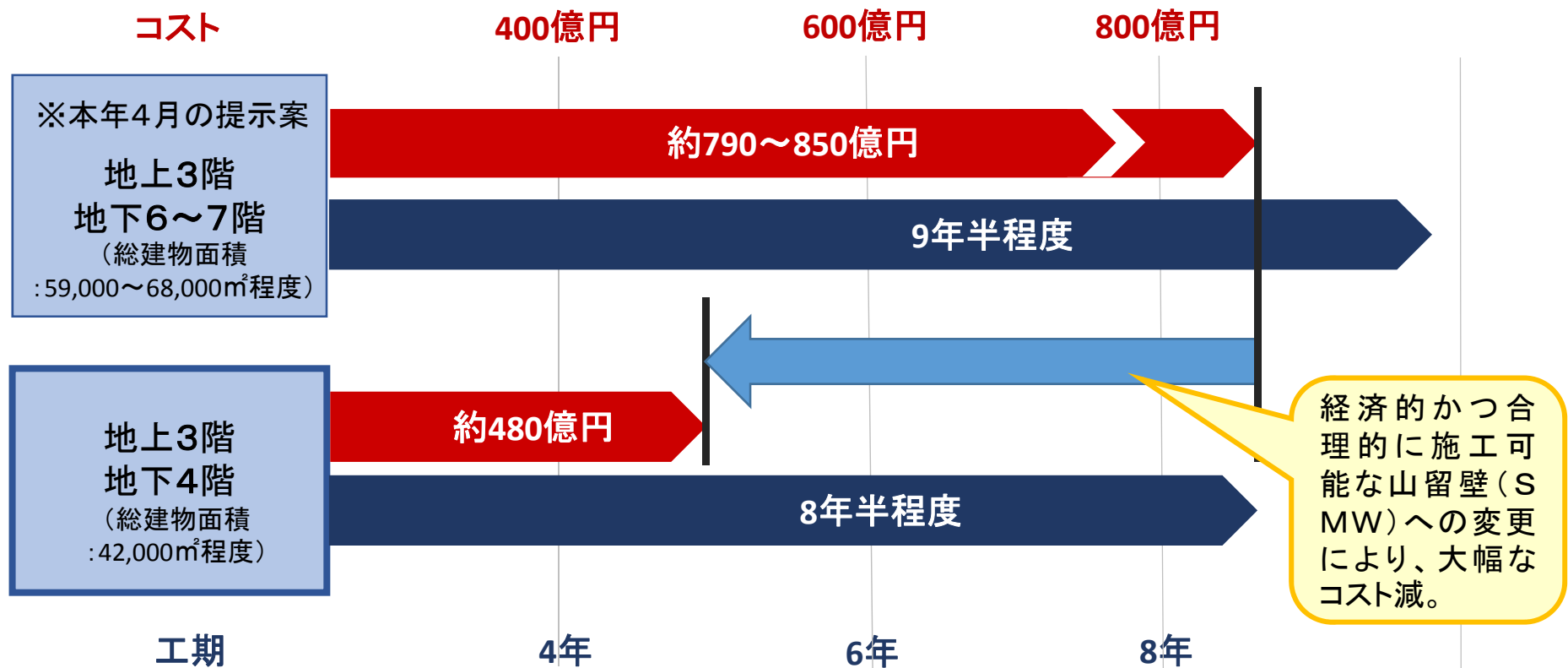
※ 現憲政記念館については全て取り壊すが、現在の建物が歴史と伝統を有したものであることを踏まえ、一部部材の活用やイメージの踏襲等を今後検討する。

※ 憲政記念館の規模・機能については、本年4月の小委員会への報告の際に示した試案（7,600m²程度）をベースとしている。

新たな国立公文書館の工期及び工費

建物工事費：約**480億円**（什器等諸費用除く）
工期：**8年半程度**

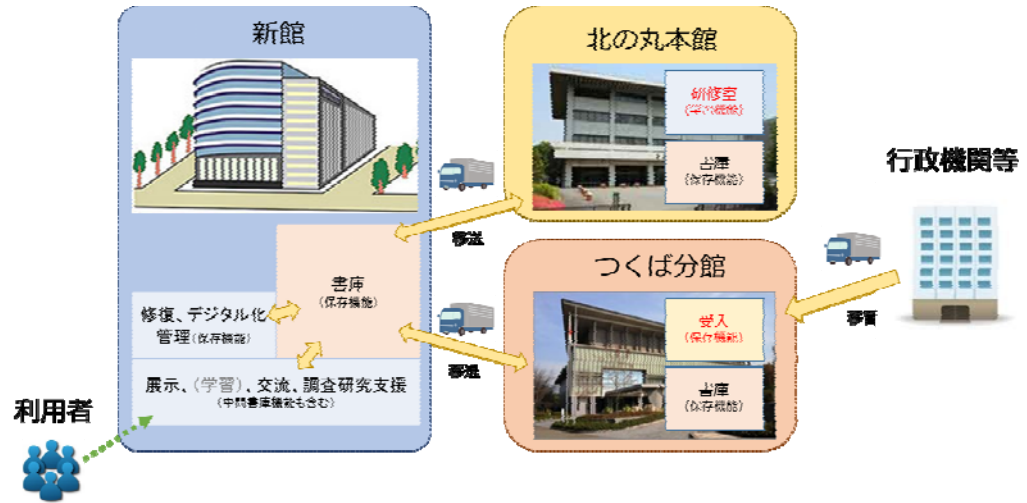
※ 現時点の試算であり、今後の物価変動、詳細検討により変動する可能性がある。



国立公文書館3館の機能分担

現在の体制

機能	北の丸	つくば
展示	○	○
調査研究支援	○	○
学習	△ 会議室の空きを活用	
情報交流		
デジタル化		
保存(書庫等)	○	○



新館建設以降の体制

機能	新館	北の丸	つくば
展示	◎		
調査研究支援	◎	○	
学習	○	◎	
情報交流	○		
デジタル化	○		
保存(書庫等)	○	○	○

新館

多くの国民が利用する展示・閲覧を中心とした総合的施設

北の丸

行政官向け研修等を実施する学習拠点と研究者向け書庫

つくば

受入れ機能を集約するなど保存機能(書庫)に特化

※ 北の丸・つくばの現行機能の一部は書庫に転換

3館の保存機能(書庫)にかかる役割分担

現在の分担 (合計11,100㎡ ※集密書架換算)

	北の丸	つくば
面積	4,100㎡	7,000㎡
役割	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>比較的利用頻度が高い文書</u> (例: 内閣文庫、大学許認可、旧運輸省(鉄道関係)等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>比較的利用頻度が低い文書</u> ・保存の必要から一般の利用に供することができない文書



新館建設以降の分担 (合計21,000㎡程度 ※集密書架換算)

	新館	北の丸	つくば
面積	8,000㎡程度	4,600㎡ (書庫転用による500㎡増)	8,000㎡ (書庫転用による1,000㎡増)
役割	<ul style="list-style-type: none"> ・展示等に用いられる国の在り方を知るための文書の原本、<u>一般国民の利用頻度が高い文書</u>(例: 重要文化財、公文雑纂、内閣公文) ・<u>移管元行政機関による利用頻度が高い文書</u>(例: 近年移管された文書) 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>大学等、研究者による利用頻度が高い文書</u>(例: 内閣文庫の和書・漢籍) 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>デジタル化された文書の紙原本等、利用頻度が低い文書</u> ・<u>一般の利用に供することが困難な文書</u>(①原本の汚損もしくは破損の恐れのある文書、②時の経過を経てもなお、利用制限情報を多く含む文書(例: 裁判文書、恩給原簿))